

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 日

【評価実施概要】

事業所番号	0373200328
法人名	株式会社結愛サービス公社
事業所名	一戸町高齢者グループホーム
所在地	岩手県二戸郡一戸町一戸字田中72番地1 (電 話) 0195-31-1235

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	3月19日

【情報提供票より】(21 年 1 月 13 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人		
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.5 人		

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 780 円		

(4)利用者の概要(1月 13日現在)

利用者人数	9 名	男性 - 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	- 名	要支援2	- 名
年齢	平均 82.7 歳	最低 76 歳	最高 90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	県立一戸病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人(株式会社結愛サービス公社)が町の第三セクターということもあり、行政との連携が非常によく取れている。また、同法人の関連施設や県立一戸病院も密集し福祉ゾーンが形成されている。医療面やケアの面でも協力を得られ、様々な連携が取りやすい恵まれた環境にあると言える。地域との関わりにおいては、当該事業所(法人)を中心に、積極的な催しものの開催やイベントの企画など、きっかけ作りを行い、広がりを作っており、更に地域密着や地域住民同士の繋がりを培っていくことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域との繋がりがりや地域密着を踏まえた理念の考え方についての課題が指摘されており、地域との関わりにおいては、地域性(事業所近隣には自治会等の活動が殆ど無い状況)もあり、模索していく中で、事業所として発信することで関係性を作っていくという取り組みが見られた。(夏祭りの企画・実施等)今後についても、このような積極的な働きかけを期待したい。また法人理念を元に事業所としての「目標」を掲げ、その人らしく生きていく為のケアに一丸となって取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今までは、「自己評価」について基本的に管理者が行っていたのだが、今回の評価については各自に振り返りをして貰い、話し合いを持ち、職員全体で行った。様々意見が出たのだが、多くは気付きのためのいいきっかけとなったようで、今後のケアに役立っていくものと思われる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されている。最近ではスプリンクラー設置について等の話し合いがなされた。議題についてマンネリ化してきていることや活発な意見交換が出来ていない事等が事業所としても課題と感じている。今後については運営推進会議のあり方について報告等だけに止まらず、更に検討して多くの意見、要望を収集するために、委員参加型の会となっていけるよう、創意工夫を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱は設置しているが、これによつての申し出や意見は現在のところ出ていない。ご家族とは口頭による意見交換が多く、ケアに対する気づきなどについてご意見を頂く。法人として「苦情解決第三者委員」(地域の代表、株主、相談役や学識経験者)を組織し信頼関係の構築に努めているが、日常的にもっと意見を言い易い環境づくりに努めていきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣では町内会活動が盛んで無いため、自治会への加入等という取り組みが難しいところがある。しかし、法人として夏祭りや敬老会等の催しを企画・開催することにより地域住民が集まる機会を作っていることは評価するべき点である。個人と地域を繋いだり、交流の場のきっかけ作りとなる活動を今後も継続して行って欲しいと感じる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安希貢信豊(あんきこうしんとう)」(※安全、安心・希望・社会貢献・信頼関係・心豊かな)という法人理念の元に、事業所として目標を掲げ(●コミュニケーションを図る●担当者の役割の充実●利用者のサインを見逃さない)、身近な関わりを大切にするとところから地域とのかかわりへ結び付けようと取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念・経営理念の唱和を行い、日々その意味を念頭に置き、ケアに当たっている。実践の中においては、誰に対してもあいさつをきちんと交わすことや、利用者への語りかけ等についても耳元でそっと話すなどの様々な心配りがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣では町内会活動が盛んで無いため、自治会への加入等という取り組みが難しいところがある。しかし、法人として夏祭りや敬老会等の催しを企画・開催することにより地域住民が集まる機会を作っていることは評価するべき点である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今までは、「自己評価」について基本的に管理者が行っていたのだが、今回の評価については各自に振り返りをして貰い、話し合いを持ち、職員全体で行った。様々な意見が出たのだが、多くは気付きのいいきっかけとなったようであり、今後のケアに役立っていくと思われる。		気づきや、振り返りをしつつ、これからのケアにどう気づきを活かしていくかも重要であるので、振り返りを検証しながらケアに当たって欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回の開催であり、最近ではスプリングラー設置について等の話し合いがなされた。議題についてマンネリ化してきていることや活発な意見交換が出来ていない事等が事業所としても課題と感じている。	○	今後については運営推進会議のあり方について更に検討して多くの意見や要望を収集し、会議の内容については報告等だけに止まらず、委員参加型の会となっていけるよう、創意工夫を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人が、町の第三セクターということもあり、行政との関わりについては密接に行われている。日ごろの利用者の状況についても気軽に話しが出来る関係性があったり、(介護)認定の更新についてもすぐに対応してもらえる。法人で企画した「夏まつり」についても協賛等して貰った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については基本的にご本人かご家族であるが、中には預っている方もいる。金銭出納については出納帳(小遣い帳)に明細を記載し、ご家族訪問時にレシートを渡し、内容の確認をし、確認印を貰っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、これによつての申し出や意見は無い。ご家族とは口頭による意見交換が多く、ケアに対する気づきなどについてご意見を頂く。法人として「苦情解決第三者委員」(地域の代表、株主、相談役や学識経験者)を組織し信頼関係の構築に努めているが、日常的にもっと意見を言い易い環境づくりに努めていきたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が法人の介護部長も兼務しており、異動への意見等はグループホームの特性に合わせた希望が通しやすい状況もあるほか、異動の際にグループホームとの兼務発令することなどにより、馴染みの関係を継続していけるような配慮もなされている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人により「研修委員会」を組織しており、この委員会により年間の研修計画を立て計画的に研修を実施している。グループホーム協会の定例会へも積極的に職員の参加を奨めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	計画作成担当者がグループホーム全国大会に参加し、様々なグループホーム関係者と交流を持ったことで、近隣の県や県内別ブロックの同業者とも繋がりが出来、良い機会となった。グループホーム協会の定例会等にも参加していることから同業者との交流を通じた取り組みが窺われる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用(入居)に当たっては、一戸病院からグループホームに移ってくるケースが殆どで、申し込みのときに事業所見学していただいたり、希望があれば別途訪問して頂くこともある。現在、利用待ち(待機者)も多くあり、今後は 待機者等のためにも利用(入居)前に体験利用が出来るようなシステム作りをしたいと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の前には畑があり、ネギ、ジャガイモ、ナス、桃、りんご、ブルーベリーなど様々作っている。実際の農作業に利用者が携わることは難しくなっているものの収穫時には共に喜び、食しているほか、夏祭り時に野菜などの販売を利用者と共に行うなど、「出来ること、やりたいこと」を職員と共に言い、楽しんでいる。日々の家事でも役割を持って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間暮らしの情報「○○さんの一日の生活」を作成し、一人ひとりの生活の流れや思いを書き記している。普段の雑談の中での話を書き留めて、日々の申し送りの時にも職員間でも「思い・希望」等を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、現場スタッフ、管理者、家族の方(面会時などに聞き取りした内容等)の意見や、病院との連絡表(受診メモ)により医師からの意見・助言を踏まえて作成している。特に本人の思いは、すぐにケアで活かしていくように取り込まれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3ヶ月に1回、また6ヶ月に1回は全てのケアプランを見直ししている。退院してくる時にモニタリングをして、ケアプランに結びつけるというような素早い対応も行っているほか、区分変更もあれば迅速な対応をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の思いを汲むことの一つとして、敬老会のときに着物を着たい方がいればご家族と協力して着付けをして会に参加するお手伝いをしたり、利用者の希望で、急遽「送り火」をしたりなど、要望に応じての柔軟な対応に努めている。当該事業所の退職者との関わりも継続的にあることで、町の広報等の配布をしてもらったりと、多様な活動や多くの方々との関わりを持っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	会社自体が、県立一戸病院と契約していることもあるが、利用者全員が県立一戸病院に(かかりつけ医として)通院している。基本的には家族による通院を対応して貰っているが、スタッフによる対応も時として行っている。歯医者などについては別のかかりつけ医に行っている方もいる。病院との連絡表(受診票)を使い、医療機関とも連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化等に伴い、最近ご家族などとも話題になることがある。現在、事業所としては具体的な指針はなく、ターミナルガイドの読み合わせの勉強会程度にとどまっている。グループホーム入居者情報(健康面での情報、薬の種類等)を活用し、利用者の健康面に注意を払っている。	○	今後の課題として、重度化や終末期についての利用者やご家族の意向把握等について事業所としても重要と考えている。看護スタッフとも連携が図れているという利点を活かし、今後更に学習して頂き、利用者・ご家族の意向把握に努め、「その人らしい」最期を迎えることが出来るように取り組んでいって欲しい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体として接遇に対する重要性を意識している。(その法人の)取り組みとして、排泄(オムツ交換)、移動・移乗、体位変換等々の筆記および実技試験があり、そのためのマニュアル本も用意されている。個人情報関係の書類保管は事務所で管理している。	○	法人の接遇に対する取り組みは、職員全体の意識や、ケアの質を向上させるためには非常に素晴らしく、法人全体の質の底上げにもなると思われ、今後も個々のスタッフの意識向上のためにも続けていただきたい。更に、グループホームにおいて、事業所の特性(認知症の方への接遇等)を見極めた細かな取り組みを行って欲しいと考える。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースを大切にケアに当たっている。起床時間や食事の時間についても、大よそ一日の流れの中で決まっているものの、その人の意向を重要視し自由な生活を支援している。食事などで時間がかかっても焦らせないようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳等も利用者とスタッフで協力してやっている様子が窺(うかが)えた。食事については利用者とスタッフは一緒に食べるスタイルではないものの、スタッフも着席し、介助に当たったりすることで、圧迫感がなくゆったり楽しく食事が出来ている。音楽を流したり、テレビを見たりして食事を美味しく頂いている様子が感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の2人の方は1人で入浴することが出来る。(介助なし)しかしスタッフは注意を払い、危険がないように入浴中の音などを確認しながら気をつけている。週末に入浴のお休みの日も設けたこともあったが、現在は毎日入浴可能な状態にしている。入浴の可否については午前中のバイタルチェックにより、体温高めの方がいる場合、看護師に聞いて判断している。大枠の入浴可否基準については一戸病院により教えてもらい、対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割、楽しみごと、気晴らしについて、個々で色々持って生活している様子が窺(うかが)い知れた。家事炊事へ積極的に参加している方や、カーテンの開閉の当番の方、モップ掛け、また楽しみとして隣接する特養ホームにヤクルトを買いにいく事や、歌や踊りのビデオ鑑賞など多種多様に過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	バスハイクはやっているが、(季節柄)回数が少なくなった。雪が解けたら利用者さんの娘さんのいる道の駅に行く予定としている。特養ホームの交流スペース(室内)を通して買物に行ったり、マッサージ(デイサービスで行っている)に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には施錠しない。夜間については防犯上施錠している。外に出て行くことがあれば、スタッフがかならず付いていく。また、廊下が繋がっている特養ホームへは、利用者が行くと連絡が入り、気軽に行き来できるような関係が出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の福祉センター全体での避難訓練のほか、併設の特養ホームと合同での避難訓練を行った。特養ホームとの訓練では、事業所の上の建物から出火したことを想定して消防への通報や、全館放送を行うなど本格的に実施した。非常時の備品についてもサンプル品などをまとめておく程度ではあるが用意されている。	○	本格的な避難訓練を行っており、非常時の対処等について実践を行うことで、対応に遅れを取らないための準備を行っていることは今後も継続して行って頂きたい。また、夜間や職員の配置人数が少ない時間帯の訓練も今後行い、様々な状態の訓練、検証を行っていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取目標は一日1000mlとしており、午前午後のお茶の時間や食事の時間にとっている。水分をゼリー状に食して頂いたり、ポカリなどの甘味のあるドリンクにより補給したり、また夏場はかき氷を食べたりしている。食事については栄養士により食事バランスを管理している。また食欲減少等による体重減少の場合の対応としてミキサー食にしたり形を変えて提供する等の工夫をしたり、好きな物を食べて貰うようにし、自力の食事摂取に戻った。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作った沢山の折り鶴や、ぬり絵など自分達で作ったり描いた作品が所狭しと飾られてあった。建物は木造で皆が集う居間には、天窓があり自然の光が差し込み、暖かい雰囲気がある。廊下の片隅には小さな椅子やテーブルが配置されていたりと、共用の空間でも個人の時間を作るための配慮がなされている。トイレは各居室に備え付けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	上記にもあるように、トイレが各居室に備え付けられているが、各居室とも清潔に保たれている。利用者個々の個性が出ている居室で、ベッド利用や畳の上に布団を敷いての形など、さまざまである。お位牌や、使い慣れたタンス、家族の写真等々思い思いの自室が作られていた。		